

# 文部時報

第 1061 号

昭和41年 1 月

## 座談会 文化財と教育

2

(出席者) 村山松雄・野間清六・西村三郎  
蒲生芳郎

(司 会) 小川修三

|                 |         |    |
|-----------------|---------|----|
| 文化財保護の当面する問題    | 平 間 修   | 26 |
| 文化財をまもる地域活動     | 金 田 智 成 | 31 |
| 外国における文化財の保存と活用 | 関 野 克   | 39 |

\* \* \*

|         |         |    |
|---------|---------|----|
| 社会と試験   | 続 有 恒   | 46 |
| 進路指導と入試 | 石 川 二 郎 | 53 |

## 対 談 大学入試制度の改善

米国のあゆんだ道をきく

ピアソン博士・朱牟田教授

60

\* \* \*

|                |         |    |
|----------------|---------|----|
| イギリスの私学制度(その3) | 犬 丸 直   | 70 |
| 随想「水神の森」       | 稲 田 清 助 | 82 |
| 教育用語「文化財」とは    | 江 口 正 一 | 64 |
| 新刊紹介「進学作戦」     | 木 田 宏   | 80 |

最終回

人物を中心とした特殊教育史

重田定正・三木安正 87

|              |    |
|--------------|----|
| 文部省の会議・行事等から | 66 |
| 文部省重要通達一覧    | 95 |



# 外国における文化財の保存と活用

関 野 克

世界の国々が、それぞれの歴史と文化とをもっており、程度の差はあるけれども、自国の文化財を国民の福祉のために保存し活用していることは、近代国家の特徴である。近年では、文化財は民族の宝であるばかりでなく、人類の遺産として、国際的にも共通の立場から尊重されつつあり、国民と国民との間の相互理解に欠くことのできない要素となっている。

文化財という言葉は、新しく国際用語となっているが、一般的でなく、外国、特に伝統の古い欧州の文化財について留意したいことは、モニュメントとサイトという言葉のじゅうぶんな理解である。日本では、史跡・名勝・天然記念物を称して記念物と呼ぶ習慣となっているが、モニュメントは記念物と訳されるものの、その主体はむしろ建造物である。建築はその細部としての彫刻や文様、壁画としての絵画や工芸品としての金具やステインドグラス等を含んでお

り、それらとともにある。したがってモニュメントは、建造物として建築、絵画、工芸を総合した有形文化財を一般に指しているのである。

サイトは遺跡と訳され、考古学的遺跡と歴史的遺跡とがあるが、田園や都市の風景も含まれている場合がある。遺跡は一定のひろがりをもっていて、地上または地下に、かつて人間の手で構築された何物かが、そのまま遺存しているか、または破壊された状態にあるか、更に廃墟になってしまっているか、あるいは単に地上のこん跡を残すに過ぎないか、または埋没してしまっているか、各種の段階がある。地上に構築物として保存のよい場合は、むしろモニュメントと称せられる。

ちなみに、文化財の保存と活用に密接な関係にある施設は、博物館と公園とである。外国における文化財の保存と活用の実態は、上

述の記念物と遺跡、並びに博物館と公園との相互の巧みな組み合わせにある。それらはそれぞれ独立して存在するが、相互に組み合わされる。たとえば、記念物としての建造物がそのまま博物館の施設に利用される場合が少なくないし、遺跡に発掘物を収蔵展示する小博物館が附属され、それらの環境は公園として整理され、都市の中に緑地帯として位置づけられる等である。また一つ一つの建築の価値が低くても、特定の地区に集中して集落として、または広場や街路を形成して総体として価値を増す場合もあり、これは一種の遺跡であるとともに記念物でもある。スウェーデンのスカンセンにある移築した民家の野外博物館は有名である。また、記念物、博物館、遺跡等が一団地となり文化財集中地区を形成しているところもあり、ヴァチカンはその代表的例であって、武力紛争の際の文化財の保護に関する国際条約（一九三五年、ヘーグ国際会議で採択）による特別保護の登録の第一号となっている。

第二次大戦による世界諸国の文化財への影響はきわめて大であった。その多くが破壊されまた荒廃した。戦後二十年それら文化財の修理と復旧は強力にすすめられたが、今日は再開発、大規模建設に悩まされている。保存と活用について、紙面の都合で以下フランス、イタリア、イギリス、アメリカの諸国の事情についてだけ述べるが、もって他山石の石としたい。

## （フランス）

フランスの大革命によって、教会堂、宮殿、貴族邸宅およびその

館で、中世建築の実物大のオーダーや彫刻的細部の石膏模形の数々や、実物大の教会堂内部と同様に内装し、壁画模写を行なっている等、すぐれたものである。またここには歴史的記念物研究センターが設置されていて、古建築関係の実測図、写真等の資料の多数が整理保存され利用に供され、その事業の中には文化財歴史地図の作成が含まれている。

フランスに *mise en valeur* という独特の言葉があつて、よく使用されている。価値を発揮する状態におくということ、美術品については、展示に関し、建造物については、その周囲の環境に関し、それぞれの文化財の価値が発揮できるよう設備するなり、整備することである。指定建造物の周囲半径五〇メートル以内で、指定建造物と同時に定められる範囲内の建造物は、現状変更が許可制となっているのも、こうした考え方によっており、ながめる権利をもつ国民に親切に取り扱われている。また逆に、街路の両面の建築正面（ファサード）のみを指定し、室内や裏側の改造が自由となっているのは、室内の実用面は所有者の自由にまかすべきと考えるからである。建造物の保存と活用がこのように円滑に行なわれているのは、フランスの一つの特徴である。

また、*son et lumière* とは「音と光」ということであるが、建造物を各方面から照明し、音楽を流し、歴史をラジオ・ドラマ式に構成して、観光季節に公開する新しい方法で、一九五二年、ロワール沿岸のシャンボール城で行なわれて大成功を博したので、ついでヴェルサイユ宮、ヴァンセンヌ城で試みられ、フランス全土に普及

中であつた美術品は相当破壊されたが、文芸におけるロマンチズムのたい頭と、中世考古学、史学の発生によって、古建築、とくに中世建築に対する理解が深められ、一八三〇年に内務省に文化財保護に関する事業部が始めて創設された。法律が成立したのは一八八七年で、ここに指定、登録制度が確立し、やがて歴史的記念物についての一九一三年の現行法律が公布された。

「歴史的記念物の中には用途と美しさとの二面があり、用途は所有者に属するが、美しさは万人に属し」、「国民の代表である国家は歴史、美術上の遺産を守るために個人の所有物についても共有権をもつ」とというのが法律の基礎をなす考えである。

天然記念物および風致の保護法は、一九〇六年のものを改正した一九三〇年の法律によっており、指定、登録、保護地帯設置を定めている。対象は天然記念物、美観、史跡、科学、伝説上の風致等である。

*Monument historique* 歴史的記念物、これがフランスの文化財の主流であつて、絵画、彫刻、考古資料、遺跡、風致すべて、建築を中心とした歴史的記念物を骨子として、これらの修理、復元にあつては、歴史的記念物に関する国の講習会を受講した建築家の中から国家試験を課してよりすぐった特別の建築家にゆだねられている。さればこそ、一九五七年、ユネスコの援助のもとで、第一回の歴史的記念物の建築家、技術家の国際会議が、シャイオ宮の一翼にあるフランス記念物博物館で開催されたのであつた。この博物館は、ヴィオレ・ル・デュックによって基礎づけられた建築模形博物

している。

パリが第二次大戦で無事であつたことは、奇跡といわれている。しかしヴァンセンヌ城の戦後の修理復元や環境の整備の保存事業と今日の公開活用とは代表的である。この城はヴェルサイユ宮前の宮殿で、一三三七年創められ、ドンジャンを含む今日の建築群の中核ができた。フランスの標本的な城塞である。ここをフランスの連隊が久しく使用してきたため、ドイツ、ナチス軍に利用され、その撤退にあつて、一部が爆破されたのであつた。そのときはからずも、火薬庫の厚い壁がとび、おおわれていた昔の墙壁と凱旋門が見されたのを機会に、軍隊施設の撤去を基本方針として、教会堂、宮殿、墙壁等の修理復元を実施し、ドンジャン等から後世の附加構造物を除いた。復元にあたつては、古記録、銅板画、建造物の破片等を精密に調査した結果に基づいて、厳格に旧態に復した。

フランスの保存事業の一斑を示す例として、ラスコーの洞窟の壁面について触れておく。同壁面は一九四〇年の発見で、一万八千年以前といわれている。一九四七年に一応の整備工事が完了して公開された。第一段階として、見学者は、毎時六〇名以下、一日一〇〇名以下に制限し、壁面照度を四—一〇ルクスとおさえた。その後、壁面の変化を観察し、その完全保存を計るため、前史、地質、物理、微生物、環境衛生その他の専門家が構成された委員会を設け、洞窟内空気の観測と、壁面の定期スペクトル写真分析を行なつた。かくして第二段階としての特別な空気調和設備が完成した。その後の二年間に十万人の見学者が訪れた。しかるに、一九六三年閉

鎖しなければならぬ状態にたまたった。それは、以上のような細心と、近代設備をもつてしたにもかかわらず、微生物が繁殖して群落を多数形成し、その結果、壁面に生物化学的影響が、懸念されたからであった。

### (イタリア)

イタリアは芸術遺産の保存事業に関して、大規模な組織をもっている。この組織は、フランスで中央集権的であるのに対して、イタリアは地域相が多様であり、歴史上の伝統に基づいて文部省に考古および古美術局がおかれていたと同時に、地方の主要地に多数の監督支部が設置されている。

現行の関係法律として、一九三九年に制定された芸術的または歴史的財産の保護に関する法律があり、芸術的、歴史的、考古学的ならびに民俗的な価値をもつ不動産、および動産を保護の対象とした指定登録制度を採用している。また自然美ならびに風光美の保護に関する法律によって、保護すべきもののリストを製作して、変更を許可制とし、公共事業、屋外広告物に対する規制をしている。

文部省の直轄で中央修復研究所、石造品修理研究所、図書修理研究所等が設置されている。なかんずく中央修復研究所は、世界で一番大きい文化財の修理についての科学技術研究所で、一九三九年の創立である。物理、化学、建築学の専門家によって保存、修理に関する科学的研究が行なわれ、アトリエで修理を実施し、修理技術者養成のための学校を開設している。古代のモザイク、フレスコ、中

ている。

ローマ駅の前、若干隔てて国立博物館がある。通称、浴場（テルメ）博物館と呼ばれている。この建物はそれ自身がローマ時代の大規模な浴場建築の一大遺構であって、かつて荒廃して民家や教会等に分割占有されていたものである。一八八九年以降、次第に博物館に改修していった。一部に浴場内部を整備保存し、他の部分は展示室に改造して博物館としている。ローマ時代のフレスコ、モザイクの断片の多くと、彫刻を展示している。また地下埋没遺構から、一室全部の壁面を完全にはぎとり、これを遺跡と同一大の部屋を復元した壁に移植した例もある。フレスコの修理と移植技術はイタリアで研究され、最も得意とするところで、法隆寺金堂の焼けた壁面の修理のとき、その技術を日本に提供すると申ししてきたこともあった。

ボルゲーゼ公園の一隅に、ヴィラ・ジュリアがある、一五五一—五三年にヴィニョラ等によって建築されたもので、一八八九年以来博物館となった。このルネサンスの建築は、外観とホールはそのままとし、内部は最も近代的に改造されて、エトルスク時代の遺物を展示している。ケースは全部ガラス製で、天井は全体をルーヴァとし、人工照明はスポットライトとしている。巧みに古建築を博物館に利用したものとして、高く評価されている。

ローマの市中には多くのフォラムとテルメの遺跡が発掘され、一種の野外博物館、一種の公園となっている。ローマのフォラムの巨大なコンクリート造のアーチの下では、オーケストラが、カテカ

世のタブローなどの修理技術が特にすぐれていて、世界の各国からこの研究所を訪れるものが少なくない。されば、ユネスコの要請にイタリア政府が応じたので、文化財の保存および修理のための国際センターが、一九五九年にローマの中央修復研究所の敷地内に設置された。これに加盟している国は三十九にのぼっているが、日本は未参加の状態にある。

イタリアは、フランスについて、第二回歴史記念物建築家技術家国際会議をヴェニスで一九五四年開催した。七十か国、七百人が参加し盛会であった。この会議で国際博物館会議（ICOM）の姉妹非政府機関として、国際記念物遺跡会議（ICOMOS）の設置が決議された。また同時に国際修復展覧会が開かれ、図面、写真、模形等の展示があった。

ローマは都市ぐるみ文化財である。第二次大戦末期に無防備都市宣言を行なった。ナチス軍隊もその撤退にあたってローマを通過しなかった。もっともローマ駅は幹線鉄路から分岐した終着駅となっており、分岐点からの鉄道輸送は容易に閉鎖できたからであった。今日では更に行政官庁センターを、ローマ郊外の隔離した地区に移し、この終着駅と地下鉄で結んでいる。この鉄道終着駅は近代建築として有名である。この建設にあたって駅頭のローマ時代の城壁の保存が問題になったが、建物の正面の右翼を変更することによって保存された。城壁といってもくずれた廃墟に等しいが、そのすそになだらかな芝生をはった築山があり、そこに数本のサイラスが植えられている状況は、端正な近代建築と調和して美しくなめられ

ラ浴場の廃墟を背景としては、オペラが、夏期に上演される。遺跡の巧みな活用方法である。シシリー島のシラクサの半円形の劇場遺跡はよく保存されており、舞台を仮設し、ギリシア劇を公開している。開演は夕陽をうけての時刻で、斜陽が舞台を照らし日没とともに終幕となる。ギリシア劇のコスチュームの色もあざやかで、パンタイムとともに無形文化財の保存ともなっているのは、遺跡の活用としてすぐれている。

シシリー島の南岸ジェラの遺跡は近年海岸の砂丘中から発掘されたギリシア時代の防壁で、長さ百メートル、高さ五メートル程もあるうか。下の三分の一の高さは切石積、上の三分の二は日乾煉瓦積である。この日乾煉瓦は、風雨によって容易にくずれるので、厚いガラスを壁面にはり、かつ防壁全体に鉄骨造の上屋をおおい、その保存の万全を期している。またピアッツァ・アルメニアのローマ時代の離宮の遺跡は発掘整備され、床平面がよくのこされている。部屋ごとのモザイクの各種はりっぱで、その上に上屋を設けて保存している。

シシリー島には古代ギリシアのアクロポリスの若干の遺跡がある。セジエスタ、セリニウンテ、アグリジェントすべて神殿、城塞、鋪道等廃墟のままを保存している。石造のがんじょうな構造物も、二千数百年の烈日と潮風にさらされて風蝕し、あるいは地震をうけて倒壊し、巨石累々として草木の生育する余地さえない程である。廃墟の美というべきであろう。ローマの外港都市のオスチアはポンペイ同様の発掘された都市遺跡である。

## (イギリス)

イギリスでは Ancient monument 古記念物という言葉が用いられている。これを保護する法律は、一八二二年に公布され、更に一九一三年、近くは一九五三年に改訂、強化された。事業省がこれらの法律によって古記念物の保護に当たっており、その様子はフランスやイタリアとだいたいにおいて同様であるが、この国の特徴は、都市計画との関連における住宅を中心とした環境の保護が、住宅、地方行政省によって行なわれていることと、ナショナル・トラストが民間事業として、住宅の保存と活用に当たっていることである。

住宅とその環境の保護は、一九四七年、一九五九年の都市地方計画法の一部に規定されているが、amenity アミニティという言葉で取り上げられている。アミニティはモニュメントを含んで、環境の立場に立っている。アミニティとは、都市計画用語として、都市やいなかの外観やレイアウトのなかにあって、単なる存在というより、むしろ心地よい愉快な生活を助長するような要素を表現しているのである。すなわち、国民の日常生活している環境の側から、文化財をとらえていて妙である。その具体的な内容は、樹木と森林地の保護、建造物の保護、広告の制限、キャンプおよびキャラバンに関すること、建造物のデザインおよび外観に関するものの五者である。

一九四四年以降、建築上、歴史上重要な建造物のリストイングが充足した。登録による保護である。大臣はリストを作製しなければならぬが、他の機関や団体によって用意されたリストを承認する形

をとつてもよい。リストが認可されると、地方計画のガイダンスとして地方計画当局に配布され、またリストに含まれた通知を、建物の所有者と占有者に与えて、建造物の取り壊し、改造等を事前に防止する。終局的にこのリストに載せられる建造物の数は十万に及び、さらに約十万が補助リストにのるといわれている。

ナショナル・トラストは、建築上、歴史上、美術上重要な建造物の保存の促進、それらの周囲のアミニティの保護と増大、歴史上、美術上からみて重要な家具、絵画、あらゆる種類の家財の保存、上記のごとき建造物、家財の公開を行なっている。そのために、自然美に富んだ場所や歴史的に重要な場所を買収、その他の手段で入手し、永久に保存する目的をもっている。一九〇七年、一九三九年の法律によって設立運営されており、いっさいの政府の支配をうけないが、しかも政府機関に匹敵する能力をもっている。

## (アメリカ)

アメリカには一口にいえば、国、公共団体による文化財の指定ないし登録制度がまったくない。もしあったとしても、歴史協会等の発行しているブルー・リボン程度である。これは私有財産を尊重する国民性によっている。したがって国が国家的見地から保護・保存を必要とする場合は、すべて国が買上げて国有財産として直接管理しているのが特徴である。

国立公園局が内務省に一九一六年の法律により設置され、すべての国立公園と国立記念物を所管し、さらに一九三三年の法律ですべ

ての国立陸軍公園、国立戦場遺跡および公園、主都公園、若干の国立墓地が加えられた。国立公園は公衆の福祉と厚生のために保存される地域であり、国立記念物は歴史上、学問上価値あるもので、公衆の福祉のために保存する地域としている。国立記念物は、地域を保護対象としているが、一九〇六年のアメリカ古器物保存法に基づく権限による大総領の宣言と、国会の特別法で設定され、国立公園より小さい。記念物の内容は、史前の考古学的遺跡、歴史的遺跡、地質関係、生物関係が含まれ、博物館を有している。

アメリカは、イギリスにならって、一九四九年の法律によってナショナル・トラストが発足した。これは史跡法に規定された政策を深め、かつ国民に重要であり、または関心のある遺跡、建造物および物件の保存に国民的参加を助長することを目的としている教育的、非利益団体、非政府機関である、歴史的文化財の取得の権限が与えられており、公衆の利益と福祉のためにそれらを管理している。取得は寄附または遺贈で、管理費は利子でまかなわれる。会員制度で全国的な会議や講習会に協賛した主催して行ない、保存活用を大衆的な活動としている。主として住宅の保護に主力が払われている。

都市全体が大規模に保存されているのもアメリカの特色である。

ジェームズタウンは、一六〇七年以後アメリカにおける最初に成功したイギリスの植民地で、一六九八年以後はイギリスの植民地の主都は近くのウィリアムズバーグに移された。一八九三年保存の道が開かれ、一九三四年国が買い上げ、一九四〇年史跡とした。

発掘は今世紀の始めから断片的に行なわれたが、組織的発掘調査は国立公園局で進められた。発掘された遺跡をそのまま保存し、遺跡の前にはその想定復元図が立てられていたり、テーブルにあらかじめ吹き込まれた説明が自動的になされたりする。ヴィジター・センターがあり、遺物の展示、パノラマによる当時の生活状況の説明がある。

ウィリアムズバーグは、ジェームズタウンにつぐイギリスの植民地の首都で、一七八〇年首都がリッチモンドに移るまでの約一世紀にわたって栄えた。この町の保存は、一九〇五年に発足するが、一九二五年にジョン・ロックフェラー二世の援助のもとに、一九二六年から復元、再建にかかった。総督官邸、議事堂、大学、教会堂、裁判所、兵器庫の公共建築をはじめ、個々の店や食堂、個人住宅から風車にいたるまで、一八世紀のそのままの姿で再現された。建物の内部には当時の家具が収集され、町全体が生きた博物館になっている。

ここで restoration 復元と reconstruction 再建との問題がある。復元が修理し、附加物を除去し、正確な資料によって欠けている部分を元の状態に復するのに対して、再建は、たとえ基礎はそのまま利用するにしても建造物を写真その他の絵画、図面等によって想像設計したものである。学問的にはとかくの批判があっても、教育的効果は大きいとされている。ウィリアムズバーグは、復元、再建のすべてを駆使している点、前記のジェームズタウンとは異なっている。(東京国立文化財研究所長)

★昭和四十一年新年号は文化財と教育を特集とし、それに入試の問題を加えました。特集テーマについては、学習院大学講師の野間清六先生、三田高校校長の西村三郎先生においでをいただき、文部省からは文化財事務局長、調査局長、文化財庶務課長が加わり座談会を行ないました。

文化財は現在、観光開発、宅地造成などの開発の進展にともなって、埋蔵文化財包蔵地の発掘が増加する一方、他方では学術上価値の高い建造物、あるいは動植物、地質鉱物等がそこなわれるという危険にさらされています。座談会ではこのような実状におかれた文化財の価値をどのように認識し、保護してゆくかについて考えていただきました。

★入試に関しては、とくに最近問題となっている大学入試制度と進

路指導を中心にとりあげました。大学入試制度については、昨年九月来日したアメリカ大学入試委員会会長リチャード・ピアソン氏と東大教授朱牟田夏雄氏との対談を掲載しました。この対談の内容は同月九日の日本経済新聞に掲載されたものですがその内容からみて、今後わが国の大学入試制度の改善を考慮する場合、きわめて示唆にとんだものと思われるので、新聞社の了解を得て再掲載することになったものです。

★人物を中心とした産業教育史に続いて、昨年七月号から七回にわたって本誌に連載されてきた「人物を中心とした特殊教育史」が本号で完結します。御執筆いただきました三木、荒川、杉田、小池、重田の諸先生方にあつくお礼を申しあげます。なお、次号からは「人物を中心とした社会教育史」を引続いて連載する予定です。

MEJ 9470

文部時報 一月号

第一〇六一号

昭和四十一年一月五日 印刷  
昭和四十一年一月十日 発行

著作権 所有 文 部 省

発行者 株式会社 帝国地方行政学会 小川 平二

東京都立川市曙町三の五五

印刷所 株式会社 行政学会印刷所

東京都新宿区西五軒町五二

営業所 株式会社 帝国地方行政学会 館別

電話 (268) 二二四(代)

振替口座 東京 〇、〇〇〇番

購 読 料

定価 一冊 七十円  
送料 〃 六円  
一か年 八百四十円  
(送料不要)

ただし増大号、臨時号の場合は別に代金を申しあげます。なお購読の申し込みは、直接発行所またはよりの書店にお願いします。